

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第3回 浅地中処分安全評価分科会 (F7SC) 議事録

1. 日時 2003年9月17日 (水) 13:30~16:30
2. 場所 (社)日本原子力学会会議室
3. 出席者 (敬称略)  
(出席委員) 長崎 (主査), 木村 (副主査), 大間, 河田, 坂下, 三倉, 佐藤, 富樫,  
中居, 橋本, 牧野, 増井 (12名)  
(代理出席委員) 苅込 (山本幹事代理), 岩井田 (大浦代理), 子安 (黒田代理) (3名)  
(常時参加者) 安達, 武部, 西堀, 八登 (4名)  
(事務局) 阿久津
4. 配付資料  
F7SC3-1 第2回 浅地中処分安全評価分科会議事録 (案)  
F7SC3-2 標準委員会の活動概況  
F7SC3-3 標準的なシナリオ, モデル, パラメータの考え方  
F7SC3-4 極めて放射能レベルの低い放射性廃棄物処分の標準的な安全評価手法  
(案その1)

参考資料

F7SC3-参考1 浅地中処分安全評価分科会委員名簿

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 出席者の確認の結果, 15名の委員中12名の委員と3名の代理委員の出席があり, 決議に必要な委員数 (10名以上) を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録確認

事務局より, F7SC3-1に沿って前回議事録の確認が行われ, 承認された。

(3) 人事について

事務局より, 山本幹事及び黒田委員より本日の分科会をもって委員を退任するとの届出が, 事務局を通じて主査に出されているとの報告があった。主査が委員の補充について意見を求め, 増井委員より, 苅込 敏 氏 (日本原子力発電), 子安 徹人 氏 (関西電力) を新たに委員として推薦したいとの提案があり, 全会一致でこれを承認した。合わせて, 主査が副主査と協議の上, 苅込氏が原子燃料サイクル専門部会で委員として承認された後, 幹事に選任することとした。また, 事務局より常時参加者の平野真孝氏 (新金属協会) が第2回分科会終了後に常時参加者の登録を解除した旨報告され, 新たに八登 唯夫 氏 (新金属協会) 及び武部 慎一 氏 (原研) が常時参加者への登録を希望されている旨報告があり, 全会一致でこれを承認した。

(4) 標準委員会の活動状況報告

事務局より, F7SC3-2に沿って, 標準委員会の活動状況報告があった。

(5) 既往の安全評価事例

a. 標準的なシナリオ, モデル, パラメータの考え方

中居委員より, F7SC3-3に沿って, 標準的なシナリオ, モデル, パラメータの考え方について説明があり, 次の質疑が交わされた。

- ・“合理的に保守的でもっともらしい”という表現が分りにくい。⇒ 保守的ではあるが現実的に近いというニュアンス。
  - ・本資料は間口が広い。⇒ 最初は間口を広げて検討し, シナリオが出揃った段階で極端なものを排除すれば良い。
  - ・施設形状はパラメータとして扱うべきではない。⇒ 標準では評価上の参考値として扱うものであり, 最終的には事業者が決めれば良い。
  - ・L3の処分場の特徴は何か。L3をあえて扱うならば特徴を考慮すべきである。
- ⇒ 管理期間が短い。長期の不確実性の考慮が不要ということか。あえて書くならば人工バリアがないというのが特徴。

- ・標準というからにはありきたりのことが書いてあっても読んで貰えないのではないか。
- b. 極めて放射能レベルの低い放射性廃棄物処分の標準的な安全評価手法（案その1）中居委員より、F7SC3-4に沿って、極めて放射能レベルの低い放射性廃棄物処分の標準的な安全評価手法について説明があり、次の質疑が交わされた。
  - ・“直接γ線／スカイシャイン／ダスト吸入”の表現は、操業シナリオにする等、他シナリオの表現と整合を図ること。
  - ・処分場は地下水面上部に設置することが前提で良いか。⇒ とりあえず地下水面上としておき、後々整合を図ることとする。
  - ・前提条件として、有害物は考慮外である旨の注記を入れた方が良い。⇒ 本文の中でなく、解説のところで触れればよい。
  - ・原安委報告ではRI・研究所廃棄物は溶融後に処分するため無害化されるとしている。
  - ・管理期間の“50年程度”の根拠は。⇒ 安全審査指針の考え方を引用している。元々は放射能の減衰を考えたものである（Co-60の10半減期相当）。将来的に管理期間が変われば変更すれば良い。柔軟に考えれば良い。
  - ・パラメータ設定では保守性を入れた丸めが必要。また、考え方の統一が必要である
  - ・設定したパラメータには解説をつける必要がある。
  - ・コードは各々の特徴を考慮して使い分けるのか。⇒ コードの使い方を特定するものではない。極論を言えば、手計算でも良い。
  - ・標準化のニーズは管理期間終了後。管理期間中の評価は事業者が考えるものであり、標準化にそぐわないのではないか。⇒ 管理期間中は直接線／スカイシャイン／ダスト吸入を考慮するとの方法論を展開しておけば良い。
  - ・操業時の事故は考慮不要か。⇒ L3処分では廃棄物の投げ込み（放射性核種の飛散）を想定しておらず、安定化して埋設することとしている。もし考慮するならば、飛散率を設定すれば良い。
  - ・落下事故を想定する場合、他に事故事象がないか調べる必要有。例えば、可燃物が有るならば、火災等を想定する必要はないか。⇒ 事故の扱いは今後協議する。

## 6. 今後の予定

- ・12月の原子燃料サイクル部会にて中間報告を行い、方向性を確認することとした。
- ・次回分科会を11/19(水) 13:30から開催することとした。なお、作業会を10月中旬に実施することとした。

以上